

年度	平成16～18年度
----	-----------

**基本目的 7 確かな学力と豊かな人間性をもった子どもが育つ**

**行動目標 7-2 子どもが心身ともに健やかに育つ**

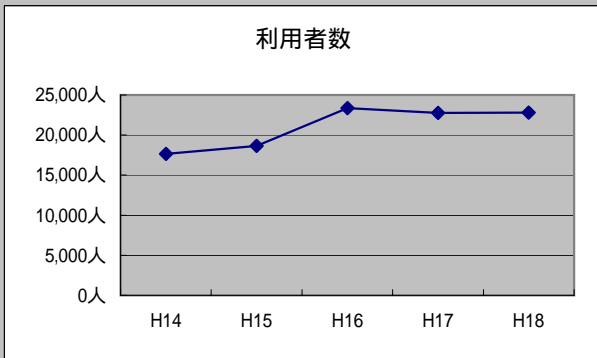
(所管課名 教育委員会社会教育課少年自然の家)

**任務** 青少年に野外活動を中心とした活動プログラムの提供や指導及び活動の場を提供する

**任務の成果・活動指標の推移**

**利用人数**

H14実績	17,638人
H15実績	18,648人
H16実績	23,366人
H17実績	22,745人
H18目標	22,800人



**利用団体数**

H14実績	233団体
H15実績	234団体
H16実績	288団体
H17実績	330団体
H18目標	335団体

**利用者満足度**

H14実績	-
H15実績	87.0%
H16実績	90.0%
H17実績	88.3%
H18目標	90.0%

**指標の説明**

利用者数と利用団体数を指標に掲げることで、少年自然の家の利用の度合いを測る。また、利用者へのアンケート調査から、受入れ体制や施設についての満足度を指標に掲げた。

**任務に対する評価**

**これまでの取組と成果、手段の妥当性**

**平成16～17年度**

平成16年度はアジア自転車競技大会の宿舎になったことや、水沢市民広場の利用が増えたこともあり目標を大きく上回った。平成17年度は広報活動の幅を広げたことにより、利用者数を伸ばすことができた。

主催事業においては、これまでの事業を充実させるとともに、博物館や民間の団体、地元地域との連携を図ることで、新たな事業を企画することができた。

○自然体験活動などのプログラムを充実させることができ、主催事業の参加者や、小中学校や子ども会からの利用者にそれらを提供することができた。

○平成17年度の利用者満足度の数値が目標値を下回っているのは、空調の調子が悪いなど、施設の老朽化によることがあげられる。そのため、順次整備にあたっている。

○「ふれあいの森」は利用者にとって、自然を直接体験できる重要な場となっている。しかし、枯れ松処理や大雨による土砂崩れなどの災害も多く、利用者の安全を確保するための整備におられることがあった。

**平成18年度**

○利用者拡大のために、広報活動をさらに工夫して行う。

○主催事業や受け入れ事業を人材活用等人的努力によってさらに充実させる。

○分館屋上の防水工事や給水管工事など、分館関係の改修工事を重点的に行う。

○「ふれあいの森」を利用者が安全で活動しやすい場所にするため枯れ松処理などの整備を継続していく。

**これからの課題、施策等展開の方向性**

○自然を直接体験できる場として、また、集団生活により社会性を身に付けられる場としてさらに発展させるために、主催事業を充実させ、また、自然体験活動プログラムの開発を進めて、利用者に提供できるようにする。

○多くの市民に自然体験活動の場を提供するために、施設の維持管理を適切に行う。また、施設老朽化への対応を計画的に行うことで、利用者の満足度を高め受入れ事業を円滑に進める。